

学校安全の推進に関する有識者会議（第4回）

日時：令和8年3月2日（月）

17：00～（最大2時間半）

場所：Zoom利用によるWeb会議

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

- （1）「危機管理マニュアル等の見直し・実効性を高める方策」について
- （2）「学校における安全教育の取組のさらなる充実」について
- （3）「学校事故の予防に向けたデータの活用と施策の検証」について（非公開）

3. 閉 会

【配布資料】

資料1—1 「危機管理マニュアル等の見直し・実効性を高める方策」について

資料2—1 「学校における安全教育の取組のさらなる充実」について

危機管理マニュアルの見直し・実効性を高める方策

第 4 回有識者会議 資料

2026年 3月 2日

目次

I. 本年度の方針

1. 実施事項
2. 会議スケジュール

II. 実施内容

1. 成果物案
2. 「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」と本資料との関係
3. 事例部分の成果物案

I

本年度の方針

1. 実施事項

■ 危機管理マニュアル等の見直し・実効性を高める方策

資料3-2



「第3次学校安全の推進に関する計画(令和4年3月25日閣議決定)」における主な関連記述

1. (3) 危機管理マニュアルに基づく取組の充実

国は、学校が作成した危機管理マニュアルについて、「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」等を活用した見直しを学校及び学校設置者に対して求めるとともに、外部の有識者等の知見を加えて見直しを行う学校及び学校設置者の取組を支援する。その際、国は、最新の情勢の変化を踏まえ、「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」を適時更新する。

事業内容

有識者会議等の意見を踏まえ、危機管理マニュアル等の見直しに関する先進事例等を収集し、各学校における危機管理マニュアル等の実効性を高める見直しの観点や手法等を整理した資料を作成する。

主な方法

- 先進事例等の収集
- ヒアリング調査

危機管理マニュアル等の実効性を高めるための資料 作成



先進事例等の収集方法

・文部科学省の過去の事業成果を踏まえつつ、有識者からも意見を聴取し選定（学校及び自治体・設置者）

・委託事業者によるアンケート調査（自治体・設置者）により選定

・選定対象について、委託業者よりヒアリングを実施

実効性を高める見直し策の観点

（学校）

・校内の事故事例、ヒヤリハット事例の活用
・避難訓練等の振り返りの活用

・コミュニティ・スクールをはじめとする地域との連携や専門家の活用

・教職員への周知徹底、体制変化（異動）への対応 など（自治体・設置者）

・見直しのための方針、参考資料等の作成など、広域的な支援

・国からの最新情報、これまでの重大事故等の活用
・各学校の取組を促す効果的な研修 など

関連調査研究

- ・学校安全の推進に関する計画に係る調査研究(R7)
〔委託業者〕株式会社NTTデータ経営研究所

事業の流れ

STEP 1：調査対象・調査方法の検討（6～9月）

- ※第1回有識者会議で事業の方向性を提案し、意見聴取
- ※先進事例等について、有識者から意見聴取
- ※委託事業者によるアンケート調査実施（8月～）

STEP 2：調査実施・結果分析・整理等（9～12月）

- ※委託事業者によるヒアリング調査実施（9～12月）
- ※適宜、有識者から指導・助言
- ※第2回有識者会議（10月末）で先進事例等の選定、分析状況等を進捗報告

STEP 3：成果物の取りまとめ（12～3月）

- ※第3回有識者会議（12月末）で成果物の素案を提案し、意見聴取
- ※第4回有識者会議（2月）に成果物の案を提案し、意見聴取 → 年度内とりまとめ

事業の成果物（イメージ）

- ・危機管理マニュアル等の実効性を高める見直しのための資料（掲載内容）
収集した先進事例等を分析し、危機管理マニュアル等の実効性を高める見直しの観点や手法等をわかりやすく整理
各観点や手法等について、有識者の意見も踏まえた解説を付すなど、各自治体・学校現場に浸透する、活用しやすい形式となるよう工夫する

成果物の活用イメージ

- ・（文科省）
都道府県教委等への通知、研修会等での活用 など
- ・（各自治体、設置者）
各学校現場への周知、研修会等での活用 など

2. 会議スケジュール

- 本会議（学校安全の推進に関する有識者会議）では、令和7年度中に4回にわたり検討を実施。また、この全体会議とは別に、調査・分析や取りまとめの方向性等、事業推進に関する重要事項について協議する小グループヒアリングを同年度内に全3回実施（済）。

事業のスケジュール

青：現在



II

実施内容



1. 成果物案

- これまでの危機管理マニュアルに関する「作成の手引」や「評価・見直しガイドライン」は、**危機管理マニュアルに記載すべき内容**について、見直しの際の留意点等も含め整理してきたもの。
- 今年度作成する資料については、**実際に各学校において危機管理マニュアルの運用や見直しが、現場への着実な定着も含め実効性のある形で行われるよう、教育委員会（都道府県・市町村※設置者の立場も含む）と学校の校内体制の観点に分けて、先進的な実践事例について、その背景やプロセス、成功要因、阻害要因などを分析しながら、主に組織体制や運用上の仕組みに関する具体的な項目**について解説をする。
- 主な読者層としては、**教育委員会の学校安全関係者や各学校の管理職を想定する。**

作成方針と目次案

仮題	実効性のある危機管理マニュアルの運用・見直しのための実践解説
主な想定読者	教育委員会（都道府県・市町村）の学校安全関係者各学校の管理職
目次案	<p>はじめに</p> <p>第1章 本資料の位置づけと構成 (1) 本資料の目的 (2) 実効性を高めるために必要な留意点 (3) 本資料の構成</p> <p>第2章 教育委員会編 Part1 見直し手法・仕組み 1 各学校は、危機管理マニュアルを定期的に見直していますか？ ～年次サイクルを確立させる～ 2 全ての学校において、マニュアルの見直しができていますか？ ～研修会等により、地域内全校一斉に見直しを促す～ 3 地域の災害リスクを各学校のマニュアルに反映させていますか？ ～危機管理部長との連携等によって、学校ごとのリスクを明確にする～ 4 優れた取組を地域内で情報共有していますか？ ～小中連携で情報を共有する仕組みをつくる～</p> <p>Part2：現場定着手法 1 各学校では、スピード感のある初動対応ができますか？ ～事前の取決めを詳細化する～ 2 マニュアルの記載内容の定着をどのように促していますか？ ～地域／学校全体に、マニュアルの理解の徹底を図る～ 3 教職員の緊急時の行動をどのように定着させていますか？ ～繰り返しの訓練準備、訓練の評価で対応力を高める～</p> <p>第3章 学校編 Part1：見直し手法・仕組み 1 危機管理マニュアルの見直しを、定期的に続けていますか？ ～学年・部門担当の代表などが参加する組織と見直しプロセスを仕組み化する～ 2 危機管理マニュアルの内容が、学校の実情に沿ったものとなっていますか？ ～専門家の視点を積極的に取り入れる～ 3 ヒヤリハット事例や訓練後の振り返り、マニュアルの改善に結びつけていますか？ ～学びをマニュアルに反映する仕組み～ 4 子供たちの気づきが、見直しに反映されていますか？ ～当事者意識を取り込む改善プロセス～</p> <p>Part2：現場定着手法 1 教職員全体が、危機管理の関心や必要性を共有していますか？ ～さまざまな形での振り返りや意見聴取で、意識と対応力の底上げを促す～ 2 危機管理マニュアルの内容が、教職員全体に浸透していますか？ ～全職員参加の取組で、異動後の教職員も速やかにキャッチアップ～ 3 危機発生時に、適切な行動を選択できますか？ ～危機発生時を想定した取組を盲検から実施する～ 4 先生と子供たちは、想定外の事態にも対応できますか？ ～「マニュアル通りにできること」を目的としない訓練で対応力を身に付ける～</p> <p>コラム：私立学校の取組（仮）</p> <p>参考資料 協力者一覧</p> <p>FAQ</p> <p>用語集</p>

2. 「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」と本資料との関係

- 「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」は、危機管理フェーズ毎に**危機管理マニュアルに記載すべき内容について、見直しの際の留意点等も含め整理・解説**。本年度は、実際に各学校において危機管理マニュアルの運用や見直しが実効性をもって行われるよう、**2つ観点（見直しの手法や仕組み、現場への定着方法）**に着目して、**組織体制や運用上の仕組みのポイントを解説するものであり、ガイドラインと合わせて活用を促進**。

危機管理マニュアル評価・見直しガイドラインと本資料との関係



3. 事例部分の成果物案

各ページの構成

危機管理マニュアルも見直し
における組織体制や運用上
の仕組みに関するポイント

ポイントの説明

読者に伝えたいキーワード

ポイントに紐づく事例

概要：全体像をコンパクトに記載

取組内容：各学校設置者や学校
の取組内容を、簡潔にまとめて記載

教育委員会編
実効性のある危機管理マニュアルの運営・見直しのための組織体制や運用上の仕組みに関するポイント

地域の学校は、危機管理マニュアルを定期的に見直していますか？
～年次サイクルを確立させる～

危機管理マニュアルの実効性を高めるには、年次更新を前提とした見直し工程を仕組み化し、計画的に磨き上げていく運用が効果的である。

【事例での取組（例）】

- 学校と設置者が共通の枠組みで改善を積み重ねる体制が準備されている。
- チェックリスト活用が準備されている
- 段階的な見直しスケジュールや年間更新サイクルが明確されている
- 研修会など「見直し」につながるイベントが実施されている

検
討
中

事例 ① **チェックリストで回す危機管理マニュアルの年次見直し**

キーワード #チェックリスト #管理訪問による確認

背景・概要

- さいたま市教育委員会は、国のガイドライン改訂を踏まえ、危機管理マニュアルの見直しを年次サイクルとして定着させる取組を進めている。
- 作成指針とチェックリストを軸に、全校が同一の流れで見直しを行う体制を整備し、実効性の向上を図っている。

取組内容

- さいたま市教育委員会では、危機管理マニュアルを単発的な整備にとどめず、年次サイクルとして継続的に見直し仕組みを構築している。
- 前年度末に作成指針を示し、年度当初の人事異動後に各学校が見直しを行い、5月にデータ提出を求める流れを基本としている。
- 改訂版作成指針には、国のガイドラインを踏まえたチェックリストを添付し、学校が自己点検を行ったうえで提出する運用としている。
- さらに、管理訪問前の事前確認、訪問時の指導・助言を通じて内容を確認し、不備があれば再提出を求めている。
- 作成指針には「定例の見直し」と「随時の見直し」を明示し、訓練や研修、関係計画の改定等を契機に改善を重ねる考え方と手順を学校に示している。

さい
たま
市
教
育
委
員
会
（
埼玉
県）

現在の取組に至るまで

- さいたま市教育委員会では、平成23年の事故を教訓に、誰かが倒れたときに迷わず適切に対応するための行動指針を明確化したASUKAモデルを基盤として、危機管理の在り方を整理してきた。
- 事故後、危機管理マニュアル作成指針を策定し、全校での整備を進めるとともに、平成29年にはASUKAモデルの考え方を反映して改訂を行った。
- その後、国の評価・見直しガイドラインを踏まえ、見直しの考え方や手順を明確化し、令和7年に改訂版として整理した。

問題・課題と乗り越える工夫

- 危機管理マニュアルの見直しにおける課題は、作成や更新が形式的な作業となり、実効性の確認まで十分に行き届かない点にあった。
- また、学校ごとの災害リスクや人員体制が異なる中で、見直しの視点や手順が学校任せになると、対応の質に差が生じるおそれがあった。
- そこで、市教委は作成指針自体を見直しの基準として位置付け、国のガイドラインに沿ったチェックリストを整備した。学校が自己点検を行い、その結果を踏まえて提出・確認・管理訪問を重ねる三段階の確認体制を構築している。
- また、見直しを「定例」と「随時」に整理し、人事異動や訓練後、地域防災計画等の改訂時に必ずマニュアルへ戻る流れを明示した。こうした仕組化により、見直しを個人任せにせず、組織的に継続できる体制を整えている。

■さいたま市での流れ

■改訂版の表紙・内容

取組実践者の声

危機管理マニュアルは、一度作って終わりではなく、毎年見直ししていくことが重要だと考えています。年度当初の人事異動を起点に必ず見直し流れを作り、チェックリストを使って学校自身が点検できる仕組みを整えました。管理訪問では、実際に機能するかという視点で確認し、必要に応じて助言しています。訓練や研修で気付いた点を次の見直しにつなげること、少しずつ実効性が高まってきていると感じています。

（さいたま市教育委員会）

現在の取組に至るまで：取組を始めた理由・きっかけ、現在までの道のりを記載

問題・課題と乗り越える工夫：これまでに直面した問題・課題やその乗り越え方、効果などを記載

取組を分かりやすく伝える写真・資料等を添付予定

学校における安全教育の取組のさらなる充実

第 4 回有識者会議 資料

2026年 3月 2日

目次

I. 本年度の方針

1. 実施事項
2. 会議スケジュール

II. 実施内容

1. 成果物案
2. 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料の関係の整理
3. 事例部分の成果物案

I

本年度の方針

1. 実施事項

■ 学校における安全教育の取組のさらなる充実

資料 3-3



「第3次学校安全の推進に関する計画(令和4年3月25日閣議決定)」における主な関連記述

3. (1) 安全教育に係る時間の確保

国は、学習指導要領の下、各学校における安全教育が保健体育をはじめ関連する教科等で体系的に実施され、その指導の充実が図られるよう、好事例を周知することや「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査」において実施状況等を定期的に把握し、公表していくことにより、各学校が学校安全計画に安全教育を取り扱う時間を適切に位置付け、年間の指導時間の確保に取り組むことを推進する。

3. (3) 学校における教育手法の改善

国は、発達の段階に応じて、被災地を含めた様々なボランティア活動などの体験活動やデジタル技術を活用した学びによる安全教育の推進を図る。また、児童生徒等が楽しく前向きに取り組めるような魅力的な授業事例、教職員が活用しやすいコンパクトな授業事例の共有やその推進を図る。安全教育についてはその効果の検証も重要であり、国は、安全教育の評価の在り方について検討を進める。等

事業内容

有識者会議等の意見を踏まえ、**安全教育の取組に関する先進事例等を収集し、各学校における安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等を整理した資料を作成する。**

主な方法

- セーフティプロモーションスクール
認証校等に対するアンケート調査
- ヒアリング調査

安全教育の体系的な実施や指導
内容を充実するための資料 作成



関連調査研究

- ・学校安全のモデル的取組に関する実態調査(R7)
〔委託業者〕株式会社NTTデータ経営研究所

事業の流れ

- STEP 1 : 調査対象・調査方法の検討 (7~9月)**
※第1回有識者会議で事業の方向性を提案し、意見聴取
※委託事業者によるアンケート調査の検討・実施(8月~)
※適宜、有識者から指導・助言
- STEP 2 : 調査実施・結果分析・整理等 (9~12月)**
※委託事業者によるヒアリング調査実施(9~12月)
※第2回有識者会議(10月末)で先進事例等の選定、
分析状況等を進捗報告
- STEP 3 : 成果物の取りまとめ(12~3月)**
※第3回有識者会議(12月末)で成果物の素案を提案し、
意見聴取
※第4回有識者会議(2月)に成果物の案を提案し、意見
聴取 → 年度内取りまとめ

先進事例等の収集方法

- ・セーフティプロモーションスクール認証校、学校安全総合支援事業モデル校等に対するアンケート調査を実施
- ・上記対象校について、有識者からの意見も聞きながら、さらに対象を選定し、ヒアリング調査も実施

調査の観点

- ・カリキュラム・マネジメントの考えを踏まえた教育課程への反映
- ・学校安全計画への位置付けや目標設定
- ・全教職員による安全教育推進のための校内組織体制
- ・コミュニティ・スクールなど地域と連携した安全教育の取組
- ・体験活動やデジタル技術の活用等の授業事例
- ・効果的な安全教育の評価手法 など

事業の成果物(イメージ)

- ・ **安全教育の体系的な実施や指導内容を充実するための資料**(掲載内容)
収集した先進事例等を分析し、安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等をわかりやすく整理
手法等について、有識者の意見も踏まえた解説を付すなど、各自治体・学校現場に浸透する、活用しやすい形式となるよう工夫する

成果物の活用イメージ

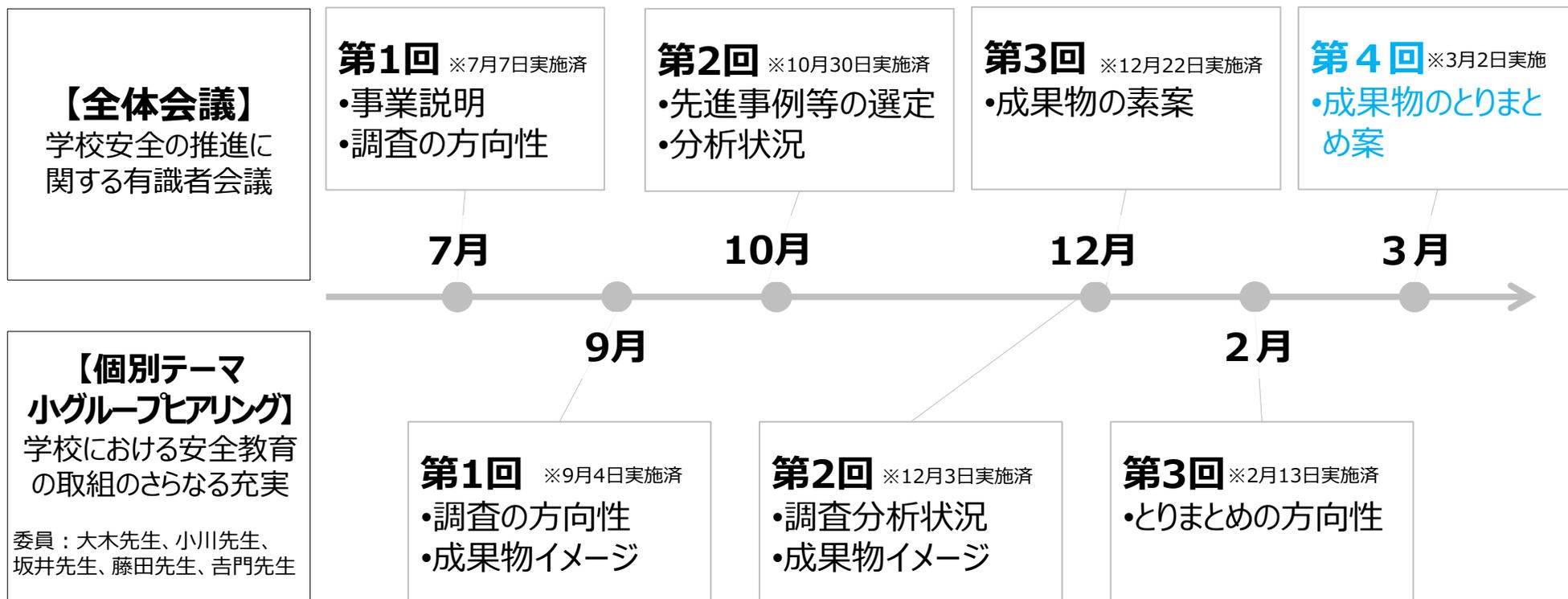
- ・(文科省)
都道府県教委等への通知、研修会等での活用 など
- ・(各自治体、設置者)
各学校現場への周知、研修会等での活用 など

2. 会議スケジュール

- 本会議（学校安全の推進に関する有識者会議）では、令和7年度中に4回にわたり検討を実施。また、この全体会議とは別に、調査・分析や取りまとめの方向性等、事業推進に関する重要事項について協議する小グループヒアリングを同年度内に全3回実施（済）。

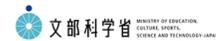
事業のスケジュール

青：現在



II

実施内容



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

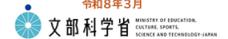
教育活動全体を通じた
効果的な安全教育のための

実 践 解 説

令和8年3月

教育活動全体を通じた
効果的な安全教育のための実践解説

令和8年3月



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1. 成果物案

- これまでも「実践的な防災教育の手引き」をはじめ、**個々の実践的な授業事例に着目した安全教育の好事例集**は作成されてきたが、今年度作成する資料については、**教育活動全体を通じた安全教育が効果的に実施**されるよう、**先進的な事例について、その背景やプロセス、成功要因、阻害要因などを分析しながら、主に学校の安全教育の評価の取組を含め、安全教育全体における運用上の仕組みに関する具体的な項目を解説**する。
- 主な読者層としては、**教育委員会における学校安全関係者**や、各学校における**学校安全の中核を担う教職員**をはじめ、避難訓練・交通安全教室や、各教科において安全教育を実施する教員など、**安全教育の実践者**を対象とする。

作成方針と目次案

仮題	教育活動全体を通じた効果的な安全教育のための実践解説
主な想定読者	教育委員会（都道府県・市町村）の学校安全関係者、学校安全の中核を担う教職員はじめ、安全教育の実践者
目次案	<p>はじめに</p> <p>第1章 本資料の位置づけと構成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」の実践にむけて・ 安全教育が目指すこと・ 本資料の構成 <p>第2章 教育委員会編</p> <p>(1) 「目標」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校に対し、着実な目標達成を促していますか？ ～設置者が定める安全教育の目標を学校安全計画に反映させる～2 各学校に対し、安全教育の目標を共有していますか？ ～設置者が定める安全教育の目標に学校の独自性を組み合わせる～ <p>(2) 「内容」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、体系的な安全教育がなされていますか？ ～体系的な学習により、安全教育の底上げを図る～ <p>(3) 「進め方」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、どのような体制で安全教育を推進していますか？ ～地域ぐるみ、中核人材双方の視点を重視する～2 各学校では、子供の主体性を育む安全教育を行っていますか？ ～体験重視や話し合い等を取り入れたプログラムの導入を促す～ <p>(4) 「評価」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、それぞれの特徴にあった安全教育の評価が行われていますか？ ～評価方法を提示することで各学校での取組を促進する～ <p>第3章 学校編</p> <p>(1) 「目標」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全に関する資質・能力の育成につながる目標を設定していますか？ ～体系的な安全教育の目標を設定する～2 発達段階に合わせた目標設定をしていますか？ ～目次から共通へ段階的につながる安全教育の目標を設定する～ <p>(2) 「内容」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 継続的に知識や技能を積み上げていきますか？ ～教育課程に体系的に安全教育を位置づける～2 系統的な安全教育の視点を持っていますか？ ～小中9年間で発達した安全教育のかけこみをつくる～ <p>(3) 「進め方」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 子供たちの思考力、判断力、表現力等をどのように育成していますか？ ～安全教育の中に「考える」要素を取り入れる～2 安全教育を通して、豊かな人間性等の育成につながっていますか？ ～実践や人とのつながりにより深い学びを得る～3 子供たちの自主性や主体性を喚起できていますか？ ～防災マップ作りを通して探究的な学習を展開する～4 命を守る実践的な力を育成できていますか？ ～失敗の仕掛けや抜き打ち訓練を組み合せ判断力を育成する～5 日常的教育活動と非常時の行動が結びついていますか？ ～普段からの活動を通じた学びにより、非常時に備える～ <p>(4) 「評価」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 子供たちの成長を適切に評価できていますか？① ～活動の結果を定性的・定量的に把握し、次につなげる～2 子供たちの成長を適切に評価できていますか？② ～地域や学校の特徴にあった評価方法を生み出す～3 改善・発展していく安全教育となっていますか？ ～共通の視点の整理や授業実践の組織的な見直しから次期計画を立案する～

コラム：学校安全計画の見直しに向けた全国の取組事例

参考資料
協力者一覧
用語集

2. 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料の関係の整理

- 本年度作成する資料では、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って、全国の教育委員会・学校が参考とできるような、**運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説**する。さらに、個々のポイントに対して、**全国の具体的かつ先進的な実践事例をぶら下げて掲載**し、各地域において自らの取組を見直し、**実際に新たな取組を取り入れてもらえるような内容**とすることを旨とする。

「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料との関係



目 次	
第1章 総 説	
第1節 学校安全の意義	7
1 学校安全の意義	7
2 学校安全に関する現状と今後の推進の方向性	8
第2節 学校安全の考え方	9
1 学校安全の定義	10
2 学校における危機管理の推進について	12
3 学校安全に関わる法令	13
第3節 学校安全計画	19
1 学校安全計画とは	19
2 学校安全計画の策定と見直し	21
第4節 危機管理マニュアル	22
1 危機管理マニュアルの考え方	22
2 学校における危機管理マニュアルの作成・見直しの考え方・手順	23
第2章 学校における安全教育	
第1節 安全教育の目標	27
1 安全教育の目標	27
2 各段階における安全教育の目標	28
第2節 安全教育の内容	29
1 安全教育の各領域の内容	29
2 教育課程における安全教育	30
第3節 安全教育の進め方	36
1 安全教育の基本的な進め方	36
2 各教科等における指導	37
3 特別活動における指導	39
4 日常の学校生活における安全に関する指導	46
5 幼稚園における安全に関する指導	47
第4節 安全教育の評価	48
1 安全教育の評価の意義と内容	48
2 安全教育の評価の方法	49

本資料の構成の方向性

全国の先進事例に対するヒアリング結果を元に、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って

①目標、②内容、③進め方、④評価

の4つのカテゴリ分けのうえ、教育活動全体を通じた安全教育のための**運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説**。また、個々のポイントに対して、全国の具体的かつ**先進的な実践事例をぶら下げて掲載**。

「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」では、「第2章学校における安全教育」の第1～4節において、**安全教育の①目標、②内容、③進め方、④評価**について解説

3. 事例部分の成果物案

各ページの構成

安全教育全体における運用上の仕組みに関するポイント

ポイントの説明

読者に伝えたいキーワード

ポイントに紐づく事例

概要：全体像をコンパクトに記載

特徴的な仕組や手法：各学校設置者や学校の取組の特徴を、3つ程度にまとめて記載

学校/安全教育の評価の方法

系統的な安全教育の視点を持っていますか？

～小中9年間を見通した安全教育のカリキュラムをつくる～

安全教育の評価づくりでは、話し合い・体験・振り返りを通して、子供の危険認知や判断力、主体的行動の変化などを把握する例がみられる。

【事例ので取組（例）】

- 話し合いの姿勢などの観察による評価
- 自己有用感、判断力などの変化に対する自己評価
- 訓練等のおの振り返りと連動した評価
- 3か年計画に基づいた段階的な目標設定と評価づくり
- 簡易テストの実施 など

事例① **小学校での学びを活かし、自助から共助へとステップアップ**

キーワード #自助・共助・公助 #地域連携

概要

岐阜県飛騨市立古川中学校では、防災を題材に、生徒一人一人が地域課題を設定し、調査・熟議・発信まで行う探究的学習「防災マイプロ」に取り組んでいる。小学校段階で身に付けた知識や技能を基盤に、自助から共助へと役割意識を段階的に広げる目標を設定し、地域の一員として行動する資質・能力の育成につなげている。

特徴的な仕組や手法

<小学校段階の学びを基盤とした目標の再定義>

小学校段階で身に付けた防災知識や技能を前提とし、中学校では「知っている」状態から「地域で生かす」段階へと目標を再定義していた。自助にとどまらず、共助・公助の視点を段階的に位置付けることで、生徒が地域の一員として行動する姿を具体的な到達像として設定している。

発達段階に応じて役割意識を広げる設計となっており、学びを次の成長段階へつなげる目標設定だった。

<地域での実践を通じた自助から共助への移行>

防災マイプロでは、座学中心のインプットに終始せず、地域での活動や発信を通じて学びを実践に結び付けている。地域行事への参加や防災マップづくりなどを通して、自分の安全を守る自助の意識から、他者や地域を支える共助の意識へと段階的に移行させている。

生徒が「地域人としての自分」を意識できるよう、目標が具体的な行動レベルで設定されている。

<発達段階に応じた資質・能力を見据えた評価と改善>

自助・共助・公助の考え方を資質・能力として捉え、アンケートによる数値化と地域との熟議を組み合わせて評価していた。数値化しにくい成長についても、地域からの声や生徒の振り返りを重視し、次年度の目標設定やカリキュラム改善に反映している。

発達段階に応じた目標と評価を往還させながら、取組を継続的に改善している点が特徴である。

取組の経緯

<小学校の学びを地域実践へつなぐ挑戦>

本取組は、小学校段階で培われた防災の知識や技能が、中学校段階で十分に生かされていないという課題意識から始まった。従来の防災教育は、知識習得にとどまりやすく、自助の意識は育っても、共助へとつながりにくい側面があった。

そこで、防災マイプロを通して、中学生として地域に関わる必然性を明確にし、発達段階に応じた目標を再構築した。地域での実践や発信を位置付けることで、生徒は自分の学びが地域に役立っているという経験を積み重ねている。一方で、資質・能力の評価は容易ではなく、数値化できない成長の見取りに迷いもあった。アンケートと地域との熟議を組み合わせる工夫を重ね、評価結果を次年度の目標設定へ反映することで、発達段階に応じた安全教育の改善を継続している。

■防災マイプロの概要が分かる資料

資料入手予定

■評価項目

資料入手予定

取組の経緯：これまでの問題・課題やその乗り越え方、効果などを記載

取組を分かりやすく伝える写真・資料等を添付予定